令和5年度版「学力向上ポートフォリオ（学校版）」【大成中学校】

⑥ 次年度への課題と改善策

知識・技能	具体的な策として挙げた、演習問題の電子化による個別最適な学びを提供することが不十分である点があった。また、演習問題をICT機器を用いて行うことで、学習に必要のないことをする生徒も見受けられた。そのため、来年度は更なる演習問題の電子化の推進をしながらも、学習場面においてのICT機器の正しい使い方を熟考して、学びの深化を計っていく。
思考・判断・表現	今年度、学校全体でTeamsを用いた課題機能やパワーポイントの共同編集を用いて協働的な学びを進めていく中で、生徒同士で蓄積した知識を駆使して、自分の考えを主張できる場面を増やした。さいたま市学習状況調査においては、全学年すべてが市平均を上回ることはできなかったが、これからも取組を続けていき、評価基準を明確にするなど、更なるブラッシュアップを行う。
主体的に学習に取り組む態度	すべての授業において、学習課題を設定して自力解決する場を多く設けた。その結果、さいたま市学習状況調査においては、市平均を大きく上回ることができ、目標値も達成することができた。引き続き、課題解決に積極的に向かう生徒の育成を図っていく。その改善策として1時間ごとの課題設定だけではなく、単元を貫く課題の設定を心がける。

① 目 標・策

	目 標		策
知識・技能	令和5年度さいたま市学習状況調査の自校結果を、令和4年度さいたま市学習状況調査の自校結果より、国語・数学の「知識・技能」において2pt向上させる。	⇒	演習問題を電子化して、teamsにアップロードすることで、いつでも問題演習を行うことができる環境をつくる。また、習熟度別に演習問題を分けることで、個人の習熟度に合わせた個別最適な学習を提供できるようにする。
思考・判断・表現	令和5年度さいたま市学習状況調査の自校結果を、令和4年度さいたま市学習状況調査の自校結果より、国語・数学の「思考・判断・表現」において2pt向上させる。	⇒	teamsの課題機能を活用して、生徒が作品・レポート等に取り組む。また、評価の観点を示して生徒が思考したプロセスにコメントを付記して、評価する授業形態を増やす。さらに、パワーポイントの共同編集等の課題解決型の学習を複数人で取り組む学習も取り入れていく。
主体的に学習に取り組む態度	令和5年度全国学力・学習状況調査において「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでましたか」の質問項目において、肯定的な回答の割合を87%以上にする。	⇒	すべての授業において、生徒とともに課題を設定し、解決の見通しをもたせ、自力解決する場を設定する。また、授業場面や定期テスト後には自己の振り返りができる時間を設定する。

⑤ 目標・策の達成状況

		評価(※)
知識・技能	さいたま市学習状況調査の自校結果によると、国語・数学の「知識・技能」において市平均正答率より、1学年においては国語が0.4pt下回り、数学は0.6pt上回った。また、2学年においては国語が0.8pt、数学は2.1pt下回った。	B
思考・判断・表現	さいたま市学習状況調査の自校結果によると、国語・数学の「思考・判断・表現」において市平均正答率より、1学年においては国語が1.2pt上回り、数学は0.4pt上回った。また、2学年においては国語が1.8pt、数学は1.5pt下回った。	B
主体的に学習に取り組む態度	令和5年度全国学力・学習状況調査及びさいたま市学習状況調査「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでましたか」の質問項目において、肯定的な回答の割合がそれぞれ、92%と88%だった。	A

※評価　A 8割以上（達成） B 6割以上（概ね達成） C 6割未満（あと一歩）

② 全国学力・学習状況調査結果・分析

知識・技能	数学では「反比例の意味を理解しているかどうか」と、英語では「状況を描写する英語を聞き、内容に最も適している絵を選択する」問題が全国平均を下回った。両問とも選択式により、比較的答えやすい問いであったが、間違える生徒が多かった。その一方で全国平均では正答率が低い問題において、本校の正答率が高い傾向があった。
思考・判断・表現	「思考・判断・表現」を問う問題では、3教科すべてで全国及び県平均を超えていた。これは日々の教育活動の中で、探究的・協働的な課題や生徒の発想力を軸にする学習指導があったためと思われる。また、日々の学習活動を積極的に考え、自らの言葉で発信している生徒の頑張りが、成果となって表れたのだと推察される。
主体的に学習に取り組む態度	「学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)」という項目で50%以上が「2時間以上」と答えた。全国平均と比べても20%以上も高い。

④ さいたま市学習状況調査結果・分析

中1	さいたま市学習状況調査の結果、「学習指導要領の領域等」の中で市平均を下回ったのは、国語の「言語の特徴や使い方に関する事項」と「我が国の言語文化に関する事項」、数学の「数と式」と「図形」の領域だった。これらの状況から、国語の知識・技能の定着が課題であり、数学の基礎・基本的な問いを困難に思う生徒が多いことがわかった。また、複合的な要素を一つにまとめることに課題を持っている生徒が比較的多いことがわかった。
中2	さいたま市学習状況調査の結果、「学習指導要領の領域等」の中で、市平均を下回り、特に課題が表れたのは、数学の「関数」と「数と式」の領域だった。これらの状況を通して、数学を不得手とする生徒が多いことがわかった。また、国語でも「話すこと・聞くこと」が市平均を下回ったことから、日々の学習場面において、お互いに説明し合うことで、知識の更なる定着の時間を確保することが課題と考えられる。
中3	実施していません。

③ 中間期見直し（全国学力・学習状況調査結果分析後）

	目 標		策
知識・技能	変更なし	⇒	変更なし
思考・判断・表現	変更なし	⇒	変更なし
主体的に学習に取り組む態度	変更なし	⇒	変更なし